

2023年度（令和5年度）学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 67	福山市立綱引小学校
最終更新日		2024年（令和6年）2月15日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力、チャレンジ&チェンジする力、つながる力、自己表現力
・子どもが引き込まれる授業は、先生が教材に引き込まれている。先生が「楽しい」「美しい」と表現することが大切。 ・情報活用能力は校区で育成する4つ力と全て関連する。「情報をどう受け止めさせるのか」、「情報と自分たちとの関わりを考えさせること」が大切。 ・先生方に見えている子どもの姿は一面であり、家庭や地域では別の姿を持っていることを大切にしたい。	・小中学校とも落ち着いた温かい雰囲気の中で、学び合ったり、教え合ったりする姿が多く見られている。 ・新市スタンダードの生活4項目に継続して取り組み、高数値を維持している。 ・課題のあった運動種目について、子供たちに目標を設定させ、体育の授業や家庭でも取り組ませた結果、課題が克服できてきた。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	・課題を設定し、情報を比較・分類・関連付けながら解決する児童生徒。 ・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・互いの良さや違いを認め合い、協働して課題の解決策を導き出す児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 ・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる自己表現力を育んでいく。 ・新市スタンダード学習5項目（準備、チャイム、話を聞く、姿勢、家庭学習）、生活4項目（挨拶、言葉づかい、身だしなみ、掃除）の徹底を進める。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	チャレンジ& チェンジする力	つながる力	自己表現力	
保護者・地域の願いを受け止め、教職員が協力し、「知・徳・体のバランスのとれた教育」「たくましく生きる力を身につけた児童の育成」を目指した学校経営を推進する。		めざす 子ども像	1 2 年	自分の考えをもち、 順序よく説明してい る。	苦手なことでも最 後まであきらめずに チャレンジしている。	自分の気持ちを話 したり、相手の気持 ちを理解したりして、 友だちと仲よくして いる。	自分の思いを相手 に伝えることができ る。
学校教育目標			3 4 年	自分の考えに根拠 をもち、友だちの意 見を聞いて比べたり、 質問したりしている。	失敗を恐れずチャ レンジし、失敗しても それをもとに次にど うすればよいか考え ている。	友だちとの良好な 関係を築くために、 学級の課題を協力し て解決している。	自分の思いや考え をまとめて表現で きる。
心豊かに 自ら学ぶ子どもの育成			5 6 年	情報を比較検討す るとともに、深い思 考の下で判断し行 動している。	リーダー性を身に つけ、課題を解決す るためにチャレンジ し、改善する力が ついてい	自分の意思をもち、 互いに信頼できる 関係を構築し、言 葉や表現を選んで 伝えあっ	自分の思いや考え を多様な表現方法 を用いて表現でき る。
現 状		研究	テーマ	自ら学び続ける児童を育成する主体的で対話的な問題解決学習の創造			
<児童> ・落ち着いた生活態度で素直。やるべきことをやり切ろうとする児童が多い。 ・全校的に学力の定着に課題を要する。思考力や表現力は個人差が大きい。 ・児童の自己肯定感は、少しずつ高まってきたが、自己有用感は低い傾向にある。 ・地域が好きな児童は多く、地域の中で学んでいる実感をもっている。 ・自分の興味・関心を活かした学習「わくわく学習」が定着し、自分でやりたいことを選択する力や、課題を解決する力、表現する力がついてきている。 <授業> ・理科を中心に研究を重ね、課題解決型の授業スタイルが広がっている。 ・キャリア教育推進事業を中学校区で受け、カリキュラムに基づいて、つける力を明確にした授業づくりが進んできている。 ・教材研究を軸に互いに学び合いながら授業をつくっていく研修が不十分。 ・コロナ禍で学び合うスタイルの授業づくりが十分にできていない。みんなで学び合い高め合う授業づくりが必須。			内容等	○単元のつながりを意識した授業づくり(理科) ○表現力を高める授業づくり（全教科・領域）			
		めざす授業の姿		① 教材研究をもとにつける力を明確にもった授業。 ② 子どもたちの疑問や問いを大事にした授業。 ③ 学び合いのある授業。 ④ ふりかえりが充実している授業。			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立綱引小学校

年 目	中期経 営目標	重 点	分 類	短期経 営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	子どもが学 び向かう 力、学び 続ける力 を育成す る。	★	継続	課題解決 力を育成 する。	・単元のつながり を意識した 授業づくりを 実践する。	・「学ばって面白 い」90%以上 (児童) ・国語・算数・ 理科の単元テ ストにおいて、8 0点以上の児童 が80%以上(テ スト)	校内研修で授業づくりの方針を示し、方針に沿 って教材研究、学びづくり案検討、授業実践、 研究協議等を行った。授業後の反省を生かせる よう、職員間で共有した。 ・「学ばって面白い」のアンケート結果は 94.6% であった。 ・国語・算数・理科の単元テストにおいて 80 点以上の児童は国：65.4%、算：71.1%、理： 71.5%であった。	3	2	・学力テストの結果分析から わかったことをもとに、対策 や取組を考えて実施する。 ・児童の学び意欲を高める授 業作りについて引き続き研 究し、実践する。	学力テストの結果をもとに改善策を 考え、全学年で実施した。また、研究授業 を行い、反省や改善策を話し合い、その後の 授業研究に生かせるようにした。 ・「学ばって面白い」のアンケート結果は 89.8%であった。 ・国語・算数・理科の単元テストにおいて 80 点以上の児童は国：60.5%、算： 68.9%、理：67.3%であった。	4	3	3	・学力テストの結果分析を もとに児童の課題に応 じた学力向上のための 取組を決定し実施して いく。 ・学びづくり案検討や研究 授業の反省を丁寧に行 い、更なる授業改善に生 かす。
			継続	チャレン ジ＆チェ ンジする 力を育成 する。	・主体的・継続 的に「わくわく 学習」を進め、 評価する。 ・自分の目標を 設定し、定期的 にふりかえる ことで自己を 認識する。	・わくわく学習 達成率 85% 以上(児童) ・「自分にはよ いところがあ る」85%以上 (児童)	学習したことを肯定的に評価し、学級だけで なく全校でも紹介した。(学校だよりへの掲 載、展示ブースの設定等) アンケートの結果 ・わくわく学習の達成率は 89.6% ・「自分によいところがある」82.8% だった。	3	3	・肯定的評価を学級や全校の 中で行うことで更なる意欲 化を図り、学ぶことの楽しさ を味わわせる。 ・児童の言動や行動を注視 し、良さの発見に努めると ともに全体の中で肯定的評価 をすることで自己肯定感を 高める。	・学年・学級や全校の中で、取 組に対して常に肯定的評価を行 ってきたことで、より広く、より 深い学びに繋がっている。 ・学校および学年通信で紹介する ことで児童の頑張りを広げてい った アンケートの結果、わくわく学習 の達成率は 85.1%、「自分にはよ いところがある」は 87.4%だった。	3	3	4	・肯定的評価が児童の意欲の高 まりに繋がり、それが自己肯定 感にも繋がっている。引き続き 児童の学習意欲を高めるとと もに、広まりや深まりが見える 取組は校内に留まらず、家庭や 地域へも紹介していく。 ・やりっ放しにせず、学習がよ り深まるよう、適宜振り返りの 場を設定する。
			継続	つな がる 力を育 成する。	・学びや行事を 通して異学年 交流を工夫す る。 ・思いやり行動 を視覚的に表 し、価値づけ る。	・「異学年交流の 場を計画し、実 施した」90% 以上(教師) ・「人とつなが る力が高まっ ている。」90%以上 (児童)	縦割り班での掃除や、集団遊びを企画し実施して きた。また授業交流として他学年の授業を児童が 観察し、コメントを送り合った。 ・「異学年交流の場を計画し、実施した」の結果、 79%であった。 ・「人とつながる力が高まっている。」の結果 73%であった。	3	2	・授業の中で異学年での関わり を持たせることでの意義 を整理し、様々な学年で交流 がしやすくなるように啓発 していく。 ・異学年交流後のふりかえり をしていき、価値づけてい く。	児童会主催の縦割り交流を企画し実 施してきた。また授業交流として他 学年の授業を児童が観察し、コメ ントを送り合った。 ・「異学年交流の場を計画し、実施し た」の結果、100%であった。 ・「人とつながる力が高まってい る。」の結果 90.8%であった。	3	4	3	・児童間の異学年交流を活発に していくために、高学年中心 に動いていけるよう啓発して いく。 ・異学年交流後のふりかえりを 継続して行い(キャリアパス ポートなど)、価値づけてい く。
			継続	教職員の やりがい・充 実感を高 める。	・自分の得意を 活かした研修 を設定し、互 いに学び合う。 ・日常的に互 いの授業を見 合い、認め合 う。	・「自分が認め られている」「仕 事にやりがい を感じる」90%以上 (教職員)	各分掌の役割に対し、適切な評価を(言葉かけ 等)が行われるよう職場の雰囲気づくりをおこ ななった。 ・「自分が認められている」と回答した教職員の 割合は 88%、「仕事にやりがいを感じる」と回 答した教職員の割合は、82%であった。	3	2	・各分掌での役割や校内研 修、管理職による授業観察な どを通して、教職員の達成感 やスキルアップを図ると同 時に、互いの業務に対する適 切な評価を行っていく。	分掌での役割を互いに認める職場風 土をつくるよう工夫を行った。アンケ ートで「自分が認められている」と回 答した教職員の割合は 92%、「仕事 にやりがいを感じる」と回答した教職 員の割合は、84%で達成率 93. 3%。	3	3	3	教職員一人一人が考える業務に対 するやりがいについて職場で共有 したり、業務量の見直しなどを保 護者地域の協力を得ながら進め たりしていくことで、子どもと向き 合う時間を増やしていく等、取組 を進める。
3	地域や 地元企業と連 携したキャ リア教育を推 進する。	★	継続	自己表 現力を育 成する。	・各教科で話す こと、書くこと を取り入れ表 現のスキルを 磨く。 ・地域のよさを 語る場を設定 し、広げる。	・「話すこと」「書 くこと」を単元 に位置づけて実 践した教員 90%以上。(教 師) ・「地域が好き」 90%以上(児童)	キャッチフレーズを書いたカードを各クラ スに配付し、授業や特別活動の中でそれに紐 づけてスキルの定着を図った。また、昨年度 に引き続きわくわく学習を行い、地域との関 わりを作った。 ・「話すこと」「書くこと」を単元に位置付け て実践した教員は 76%であった。 ・「地域が好き」と答えた児童は 88.7% だった。	3	2	・各教科の中で話す・書く活 動とともに、積極的にアウト プットをすることで、意欲的 に自己表現力の向上に取り 組めるような実践を行う。 ・授業や行事、わくわく学習 を通して、児童が楽しく地域 と関わる場を作り、地域の良 さに気付けような支援を行 う。	年間を通して全学年出前授業を行った。出 前授業により、地域や外部とのつながり を作り、学びに楽しさを感じられるようにな った。また、授業や特別活動の前にはフ ィードバックをするようにした。 ・「話すこと」「書くこと」を単元に位置付 けて実践した教員は 100%だった。 ・「地域が好き」と答えた児童は 96.6% だった。	3	4	3	地域とのつながりを今後も意 識していくために、引き続き出 前授業を実施していく。また、 授業や特別活動に目的を持っ て取り組むために、話すこと・ 書くことを位置付けた振り返 りを行う。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。